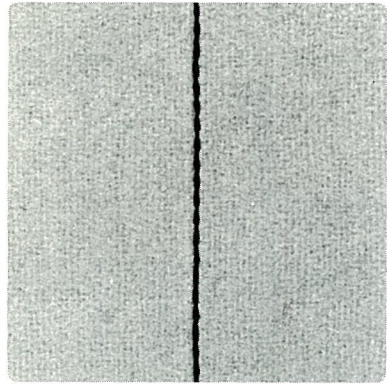

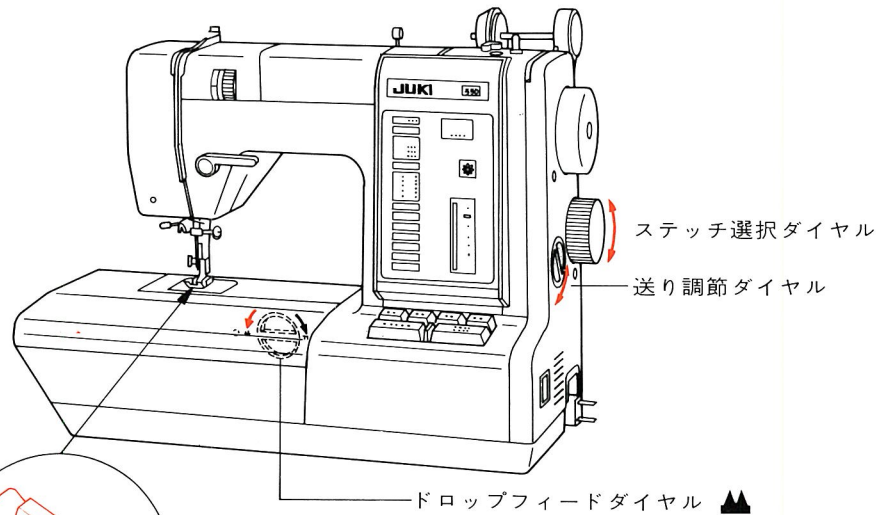


伸縮強化縫い(ストレッチステッチ) ジャージー、トリコット、ニット等の伸縮性のある布地に適します。

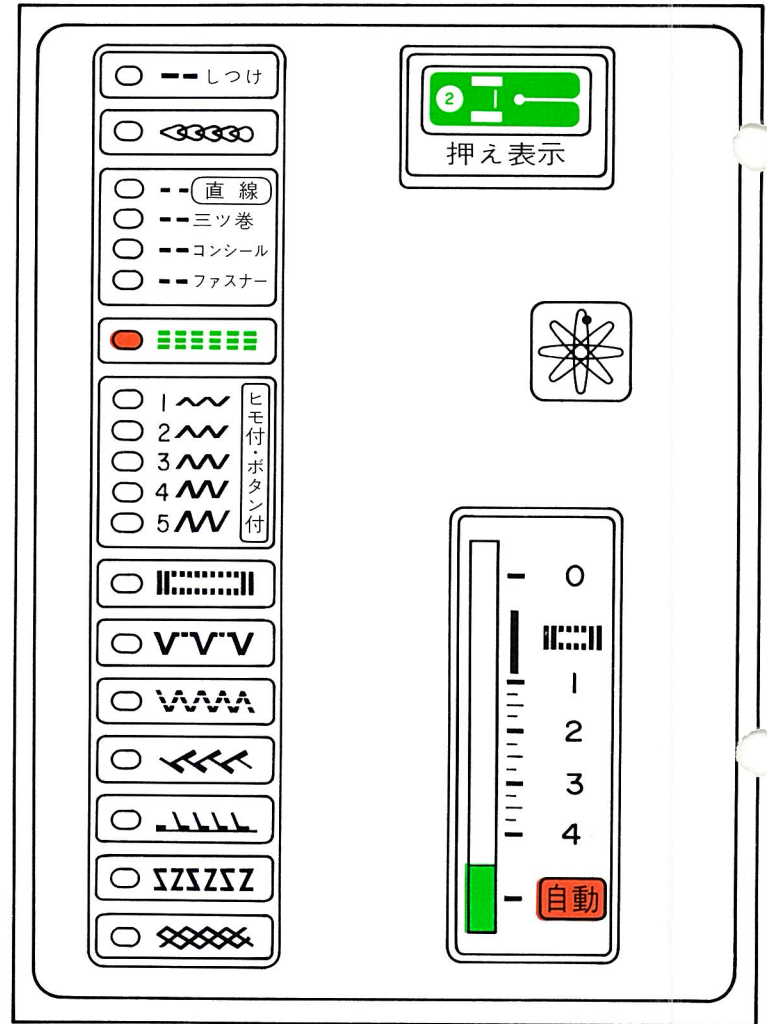


(1) セットの仕方

- ① ステッチ選択ダイヤルを  に合わせ、押え表示窓に表示された  の押え金を使います。
- ② 送り調節ダイヤルは **自動** に合わせます。
- ③ ドロップフィードは  に合わせます。



2 直線押え

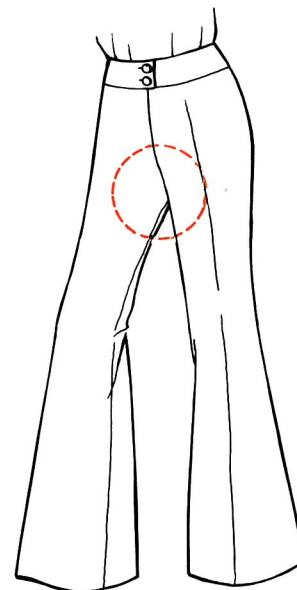
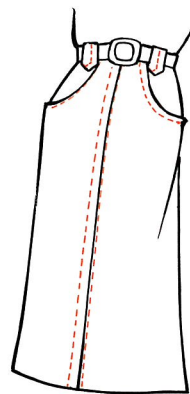


三重縫いで、しかも伸縮性がありますから、布地が伸びても糸切れしたり、ほつれたりする心配がありません。縫い目はきっちり縫い合わせることができます。

針はニット針を使います。目飛びの心配がなく美しく仕上がります。

※ズボンの股上、ポケットつけ、ベルト通しつけなど、丈夫に縫う場合に活用します。またウエストはぎ、ヨークつけ、カフスつけ等、一方にギャザー、タック、フリーツなどの入った縫い合わせの場合に、縫い目がしっかり縫い合わされます。

応用例

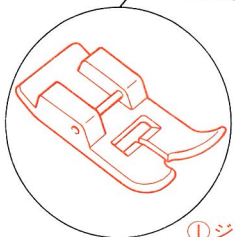
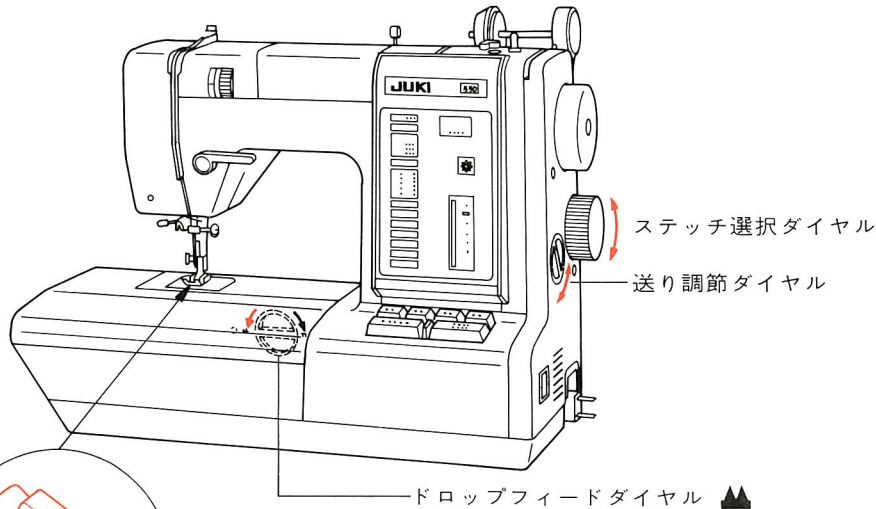
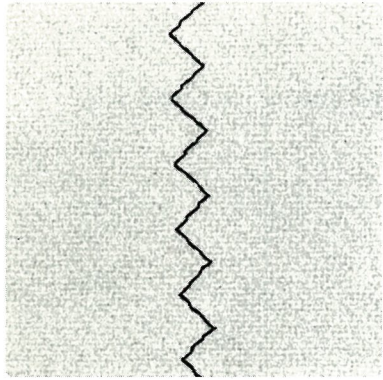


エラスチック

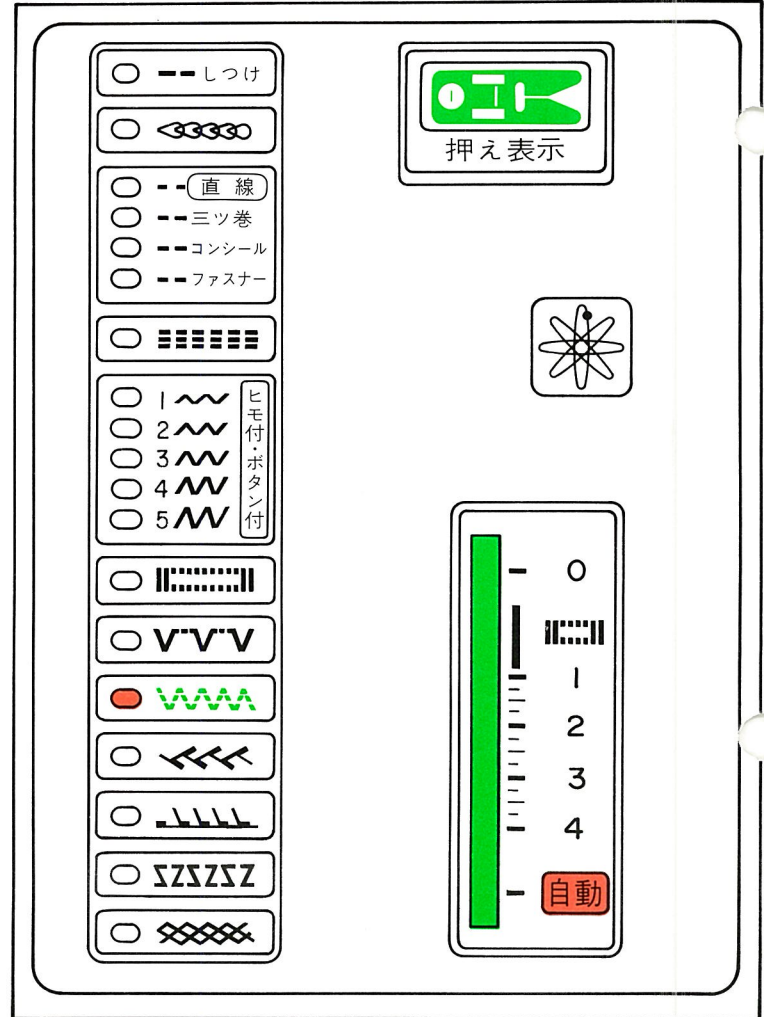
ゴムテープを布地に縫いつける場合や、吊りテープ、インサイドベルトを縫い止める場合など、点線ジグザグ縫いで縫いつけますと、きれいに丈夫に縫い止められます。

(1) セットの仕方

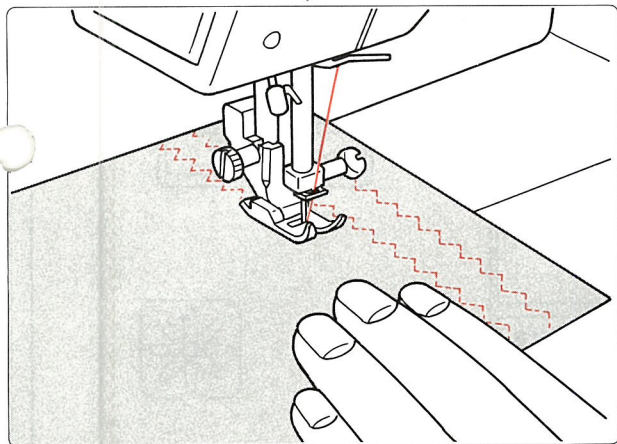
- ①ステッチ選択ダイヤルを **W** に合わせ、押え表示窓に表示された **1** の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは0~4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ドロップフィードは **▲** に合わせます。



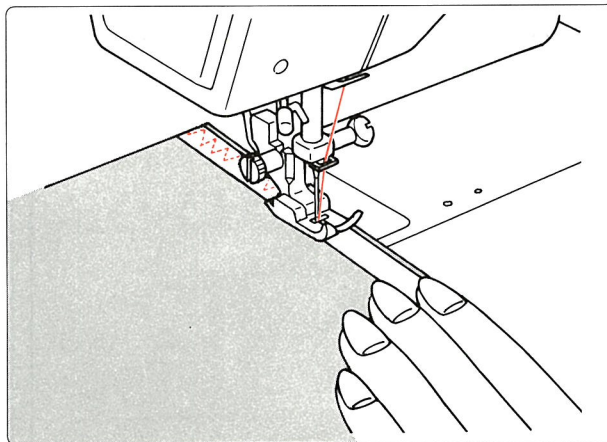
①ジグザグ押え



点線ジグザグのメリヤス縫い

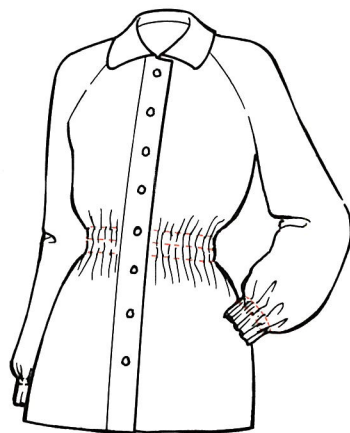
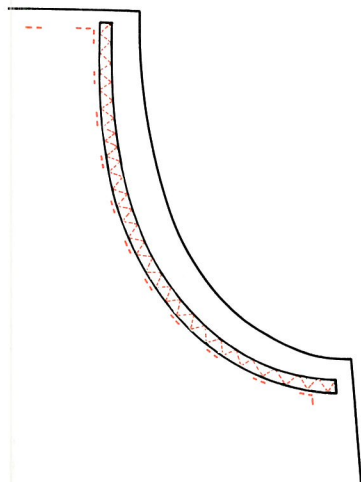


点線ジグザグのゴムひもつけ



※ゴムテープを縫いつける場合は、
押え調子ダイヤルを弱にし、上糸
の糸調子は3~4の目盛にします。



応用例

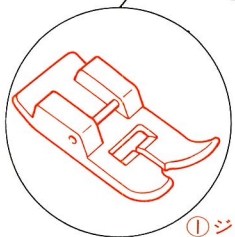
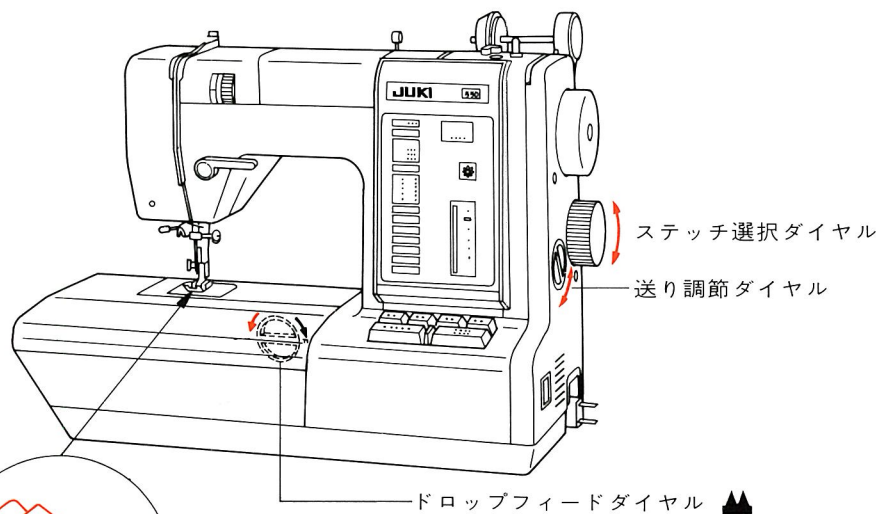
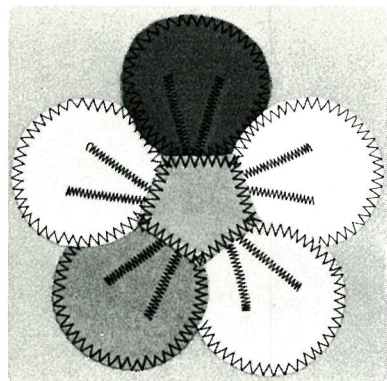


アップリケ

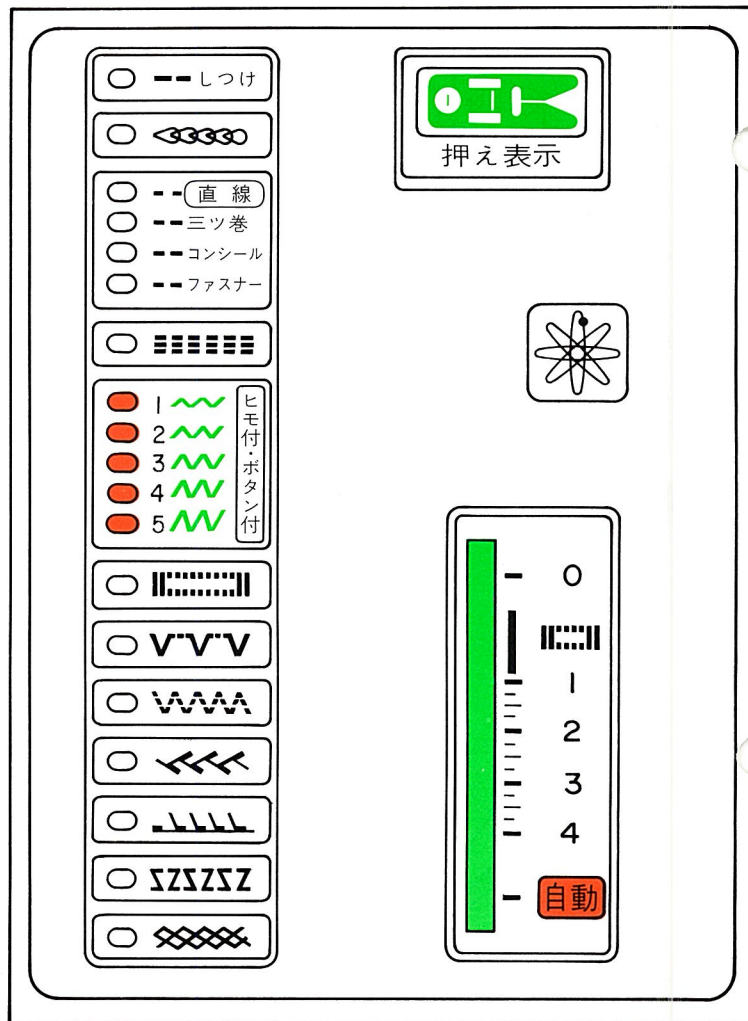
市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単に縫いつけられます。子供服、スカート、エプロンやテーブルクロス、クッション等、室内装飾にも活用できます。

(1) セットの仕方

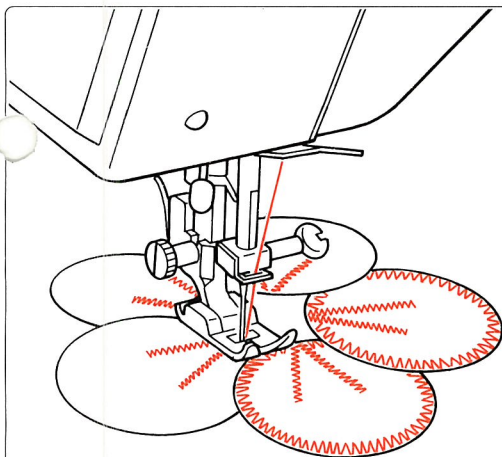
- ① ステッチ選択ダイヤルを  の1・2・3・4・5のいずれかに合わせ、押え表示窓に表示された①の押え金を使います。
- ② 送り調節ダイヤルは0～4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ ドロップフィードは  に合わせます。



① ジグザグ押え



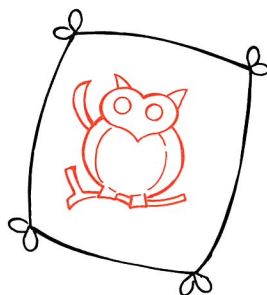
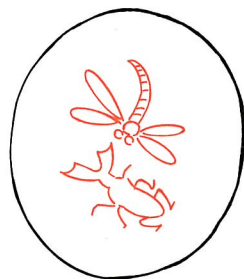
(2) 縫い方



- ① アププリケ布を所定の位置に正確にのりづけやしつけで止め、当て布をあてて、かるくアイロンでおさえます。
- ② アププリケの布端を縁かがりと同じ要領で、ジグザグ縫いで縫いつけます。縫い始めと終りは直線縫いで送りを0にして2～3針止め縫いをしてから、2・3のジグザグ縫いに合わせて、アププリケ縫いをします。

※急角度のところや、布地の方向を変えて縫う場合は、はずみ車を回し、針をアププリケの布端に刺し込んでから、方向を変えるようにします。



応用例

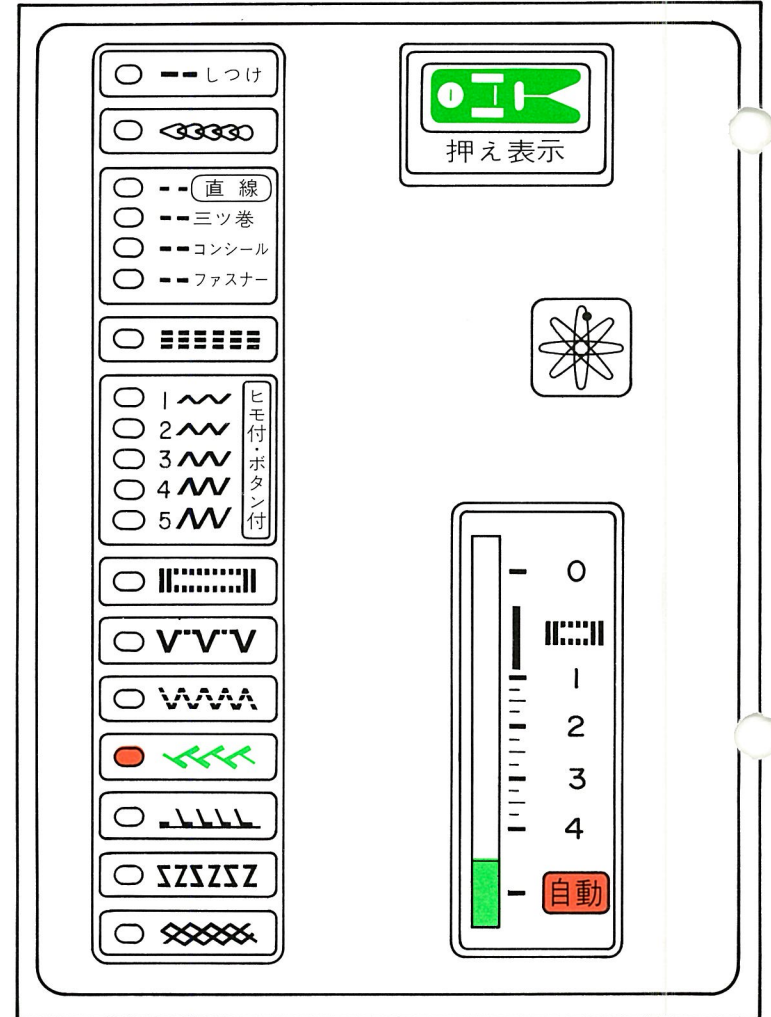
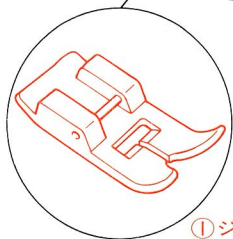
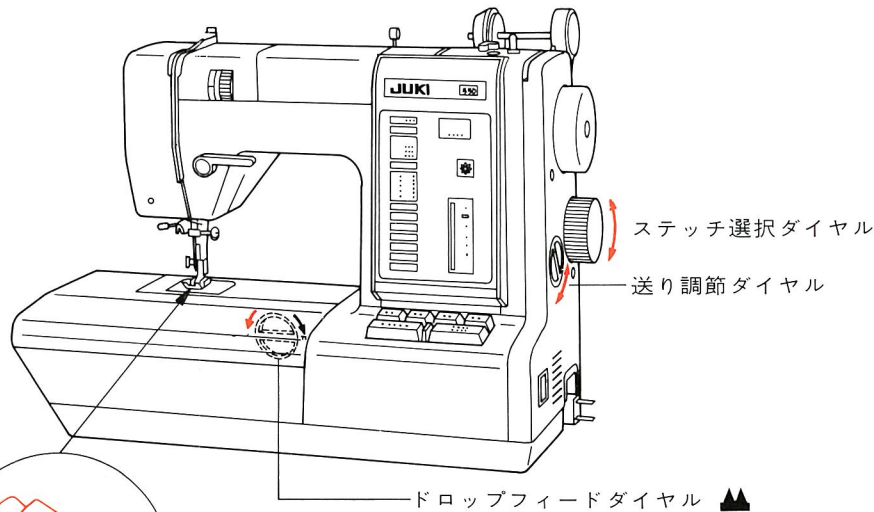


レースつけ

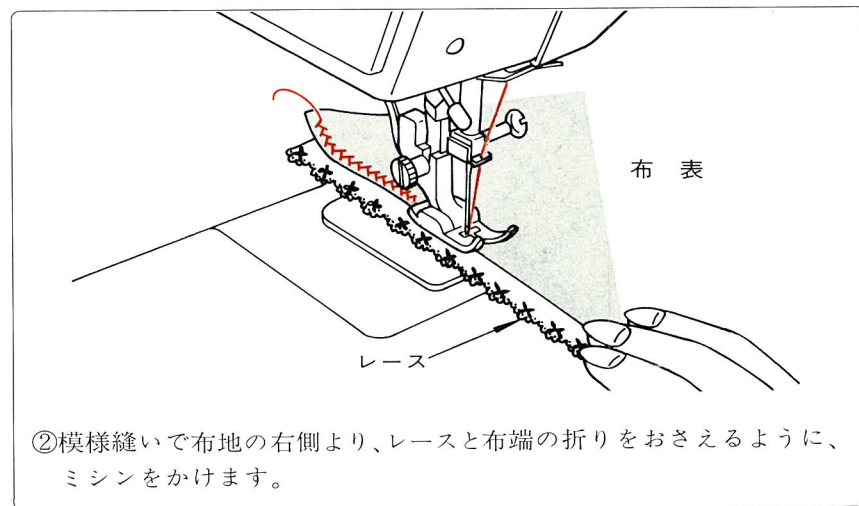
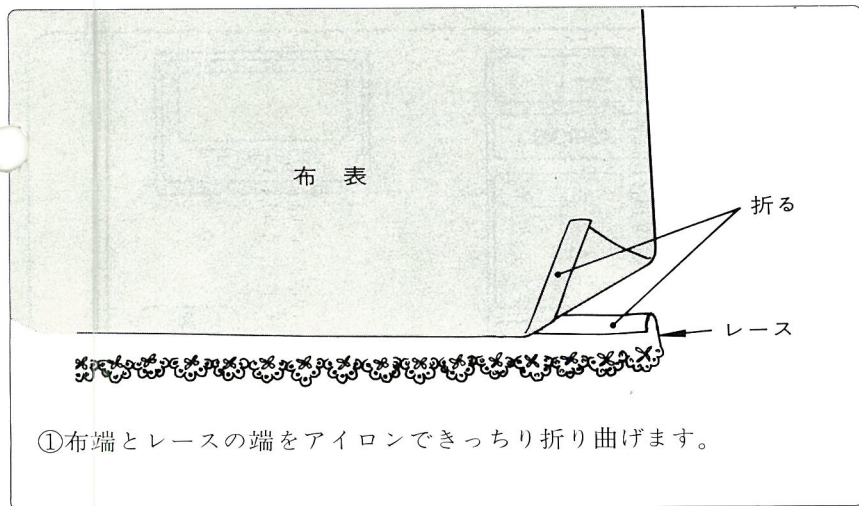
ブラウスの袖口、衿、ワンピースの裾、フリルの端やエプロン、枕カバーなどにレースをつけるとき、自動模様縫いでつけると美しく丈夫にレースつけができます。

(1) セットの仕方

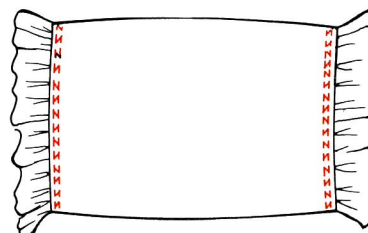
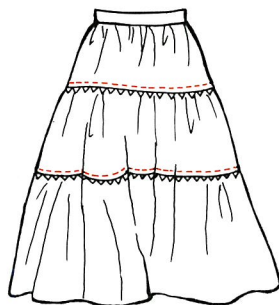
- ①ステッチ選択ダイヤルを  に合わせ、押え表示窓に表示された①の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは **自動** に合わせます。
- ③ドロップフィードは  に合わせます。



(2) 縫い方



応用例



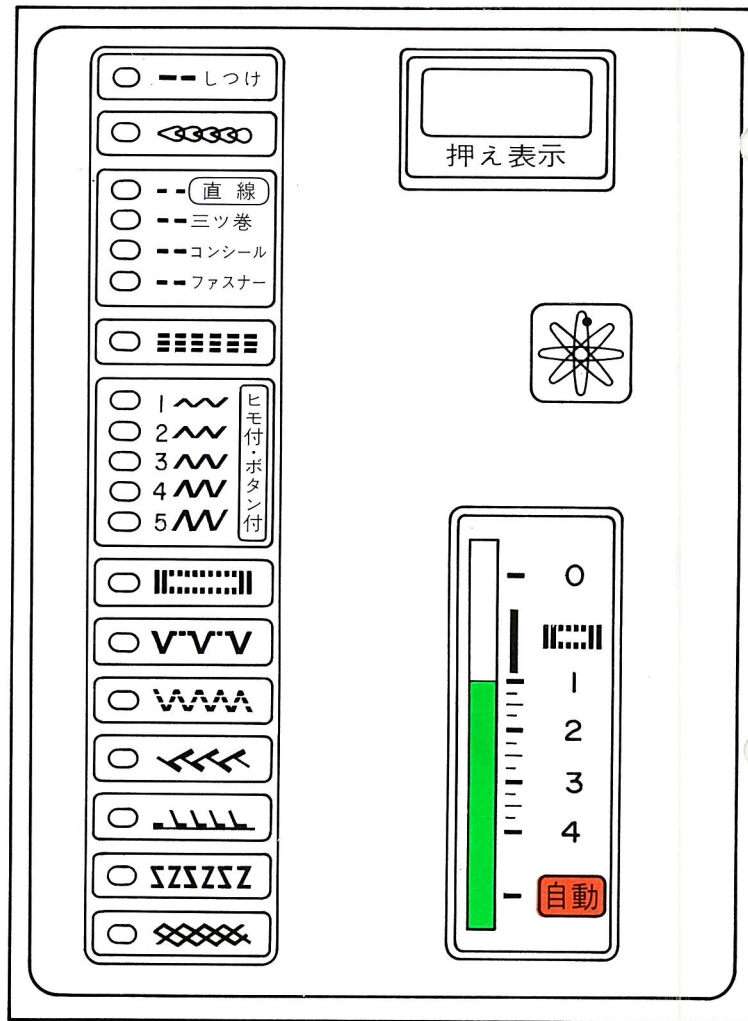
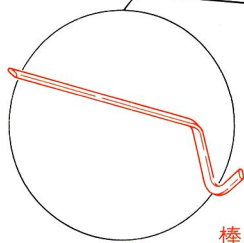
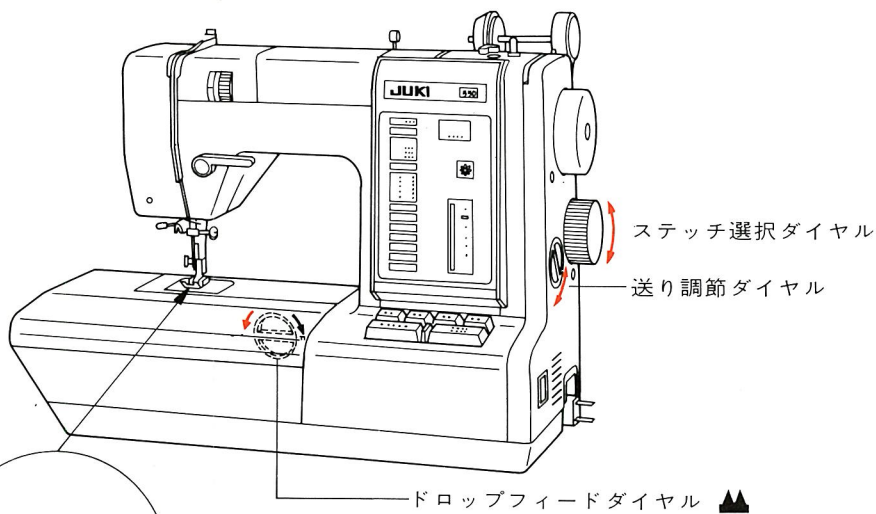
キルティング

2枚の布地を合わせて縦、横、斜めと平行に縫い目を入れる縫い方で直線縫いでも模様縫いでもできます。2枚の布地の間に綿などを入れると防寒や装飾に役に立ちます。

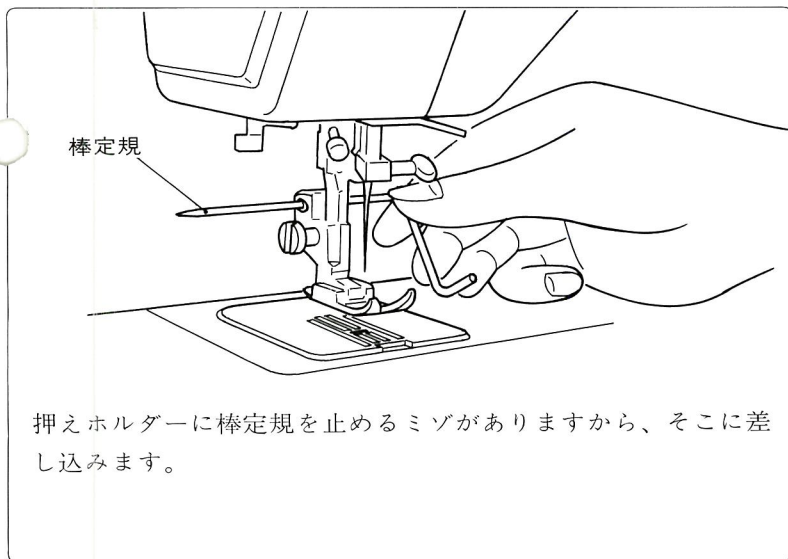


(1) セットの仕方

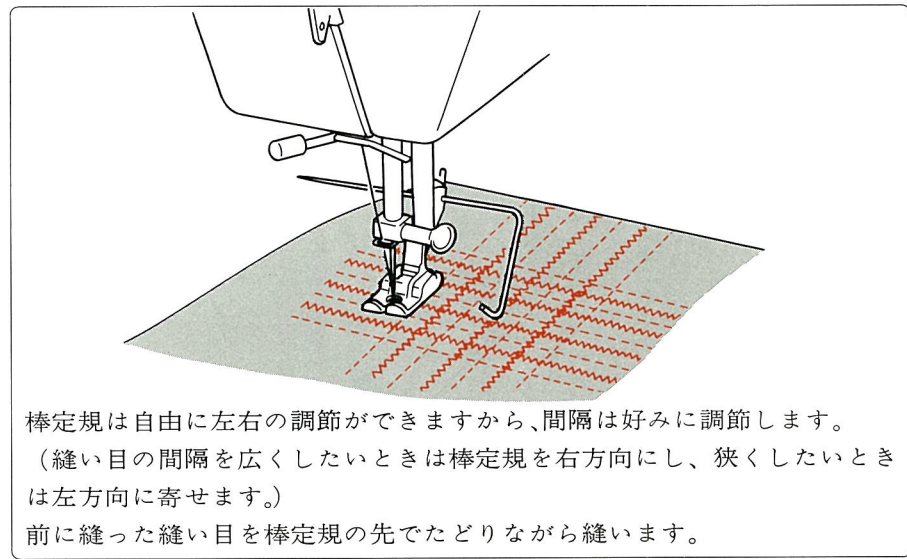
- ① ステッチ選択ダイヤルを好みのステッチに合わせ、①または②の押え金を使います。
- ② 送り調節ダイヤルは1～4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ ドロップフィードは▲に合わせます。
- ④ 押えホルダーに棒定規をとりつけます。



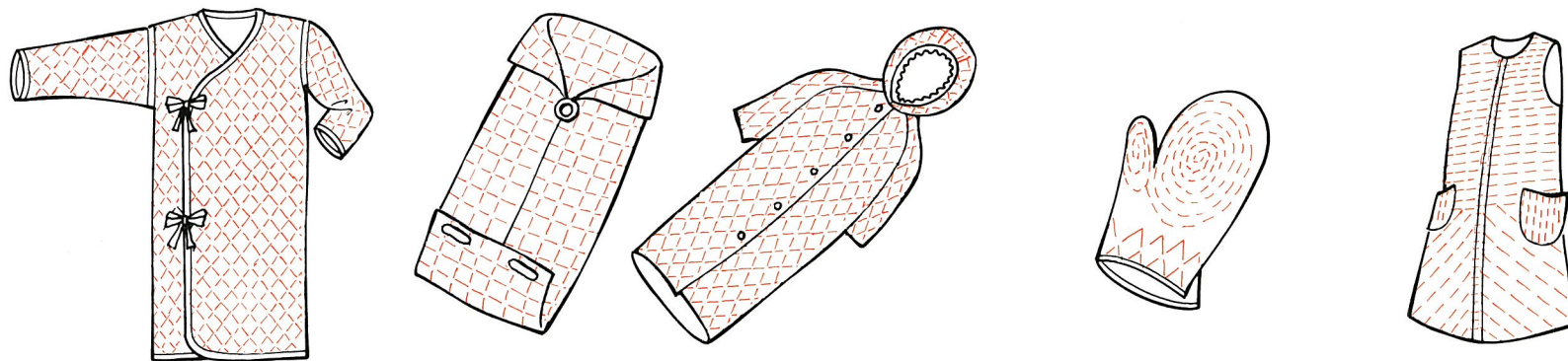
(2) 棒定規のとりつけ方



(3) 縫い方



応用例





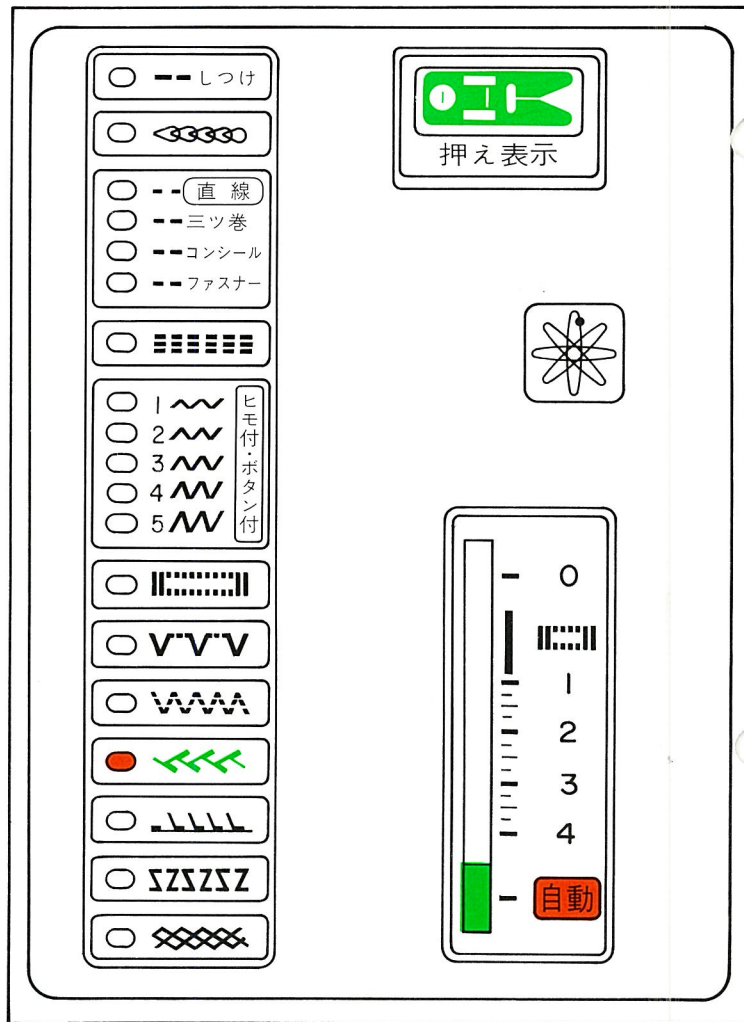
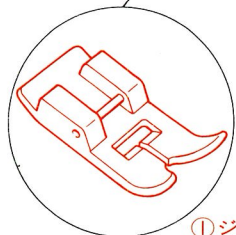
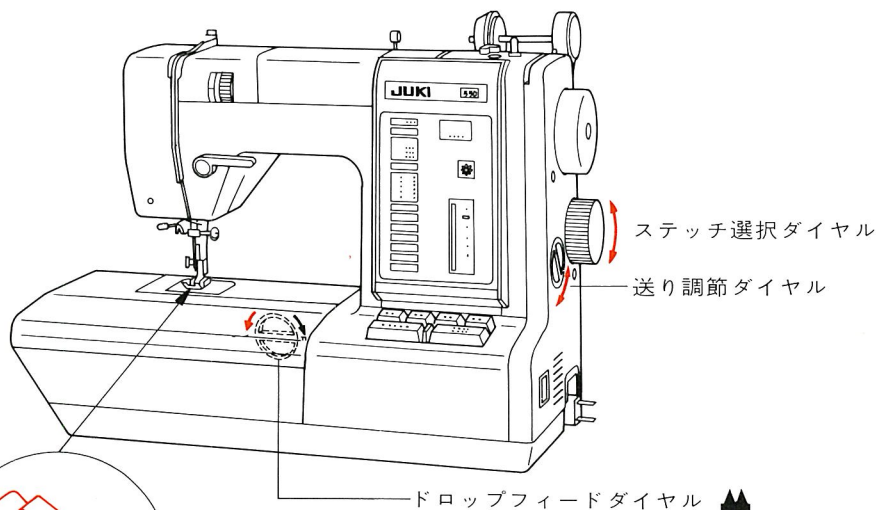
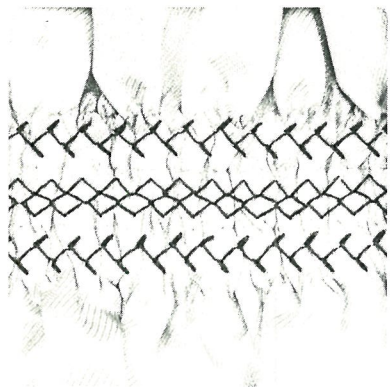
スマッキング

ギャザーを寄せた布地の上に配色のよい糸で模様縫いをします。
子供服やブラウス、手芸品などに利用します。

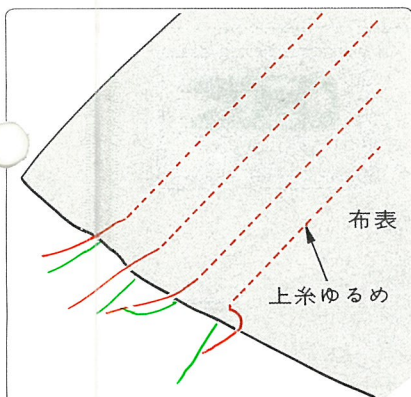
(1)セットのし方

直線縫いでギャザーを寄せた布地を準備します。

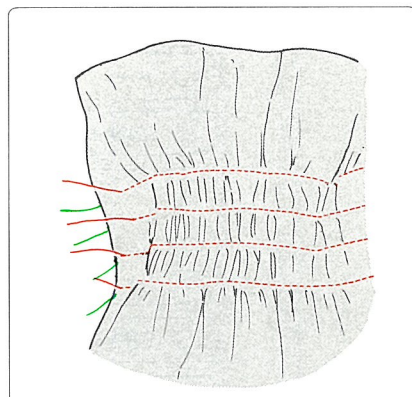
- ①ステッチ選択ダイヤルを  に合わせ、押え表示窓に表示された①の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは **自動** に合わせます。
- ③ドロップフィードは  に合わせます。



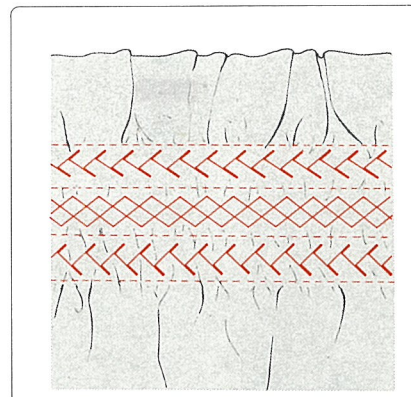
(2) 縫い方






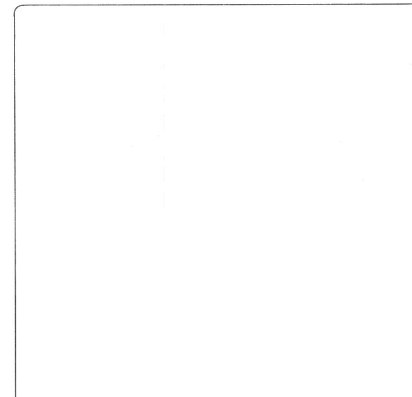
①上糸の調子を弱くして、約1センチの間隔に数本、送り4で直線縫いをします。



②下糸だけを一方から引っぱってギャザーを平均によせ、アイロンで軽く、ギャザーを固定します。

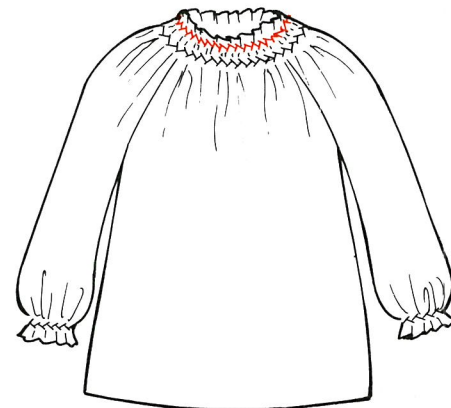
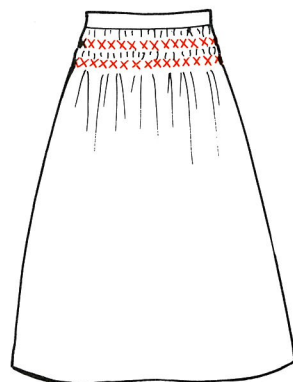


③ステッチ選択ダイヤルを回して、自動模様を選び、ジグザグ押えに替え、送りを自動にして縫います。(、 、 ) 直線縫いの間を模様縫いします。



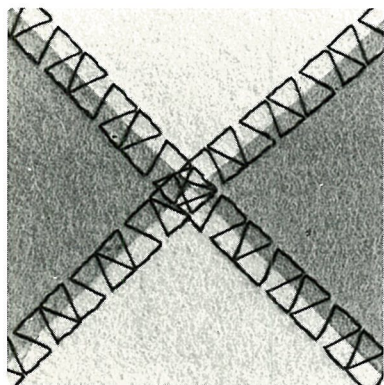
④ギャザーを寄せた直線縫いの糸を抜きます。

応用例



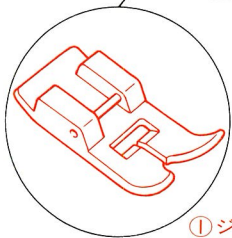
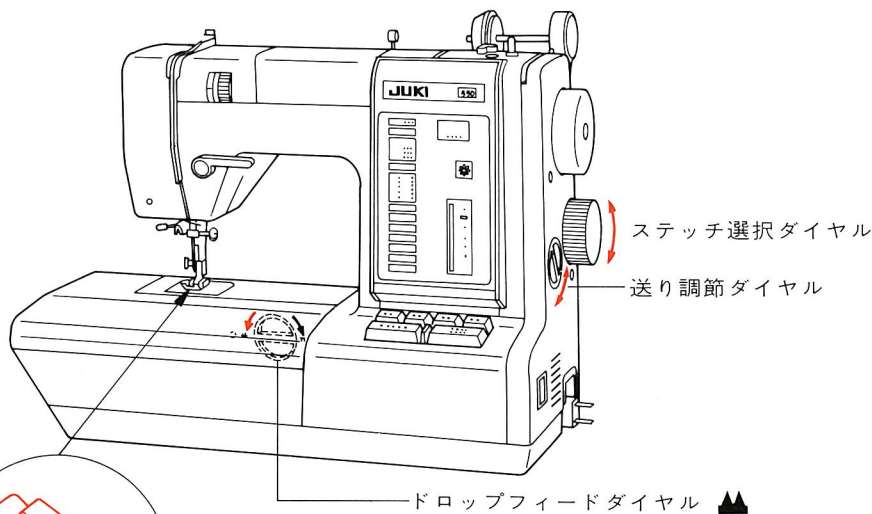
パッチワーク(はぎ合わせ)

いろいろな布地をはぎ合わせるのに自動模様を使うと、美しく、縫い代がしっかりおさえられます。残り布などを活用し、小物類や室内装飾などに用います。

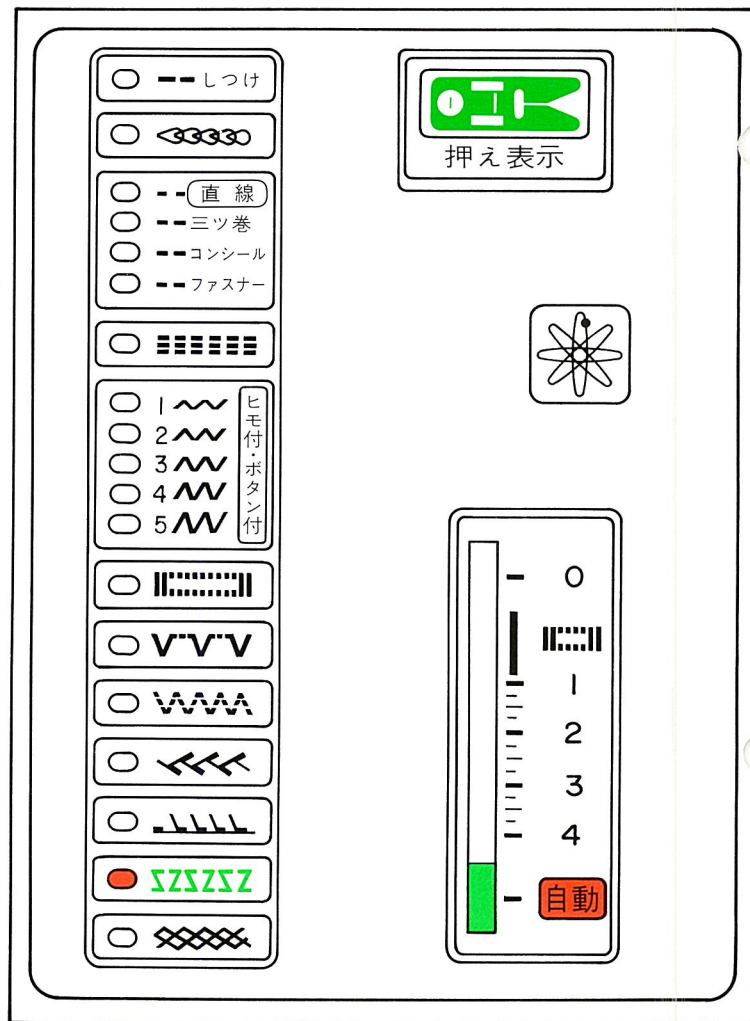


(1) セットのし方

- ① スイッチ選択ダイヤルを **SZSZ** に合わせ、押え表示窓に表示された①の押え金を使います。
- ② 送り調節ダイヤルを **自動** に合わせます。
- ③ ドロップフィードは ▲ に合わせます。

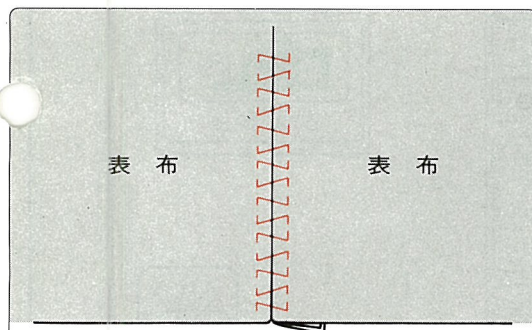


① シグザグ押え



(2)縫い方

重ねはぎ

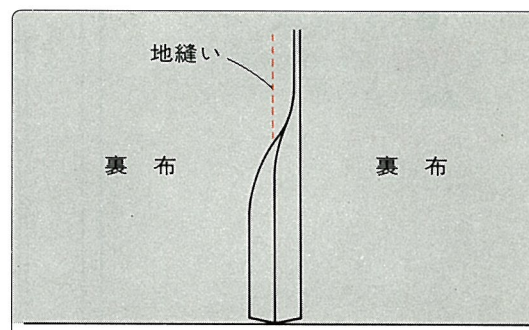


①縫い代を1~1.5センチとり、上にする布地の縫い代を裏に折って下の布地の縫い代を重ねます。

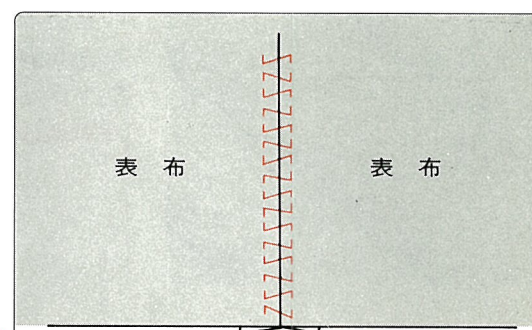
②はぎ合わせる部分を押えの中央に合わせて、両方の布地に模様がまたがるようにします。

※地縫いをした後で、表布から模様縫いするときれいに仕上がります。

割りはぎ

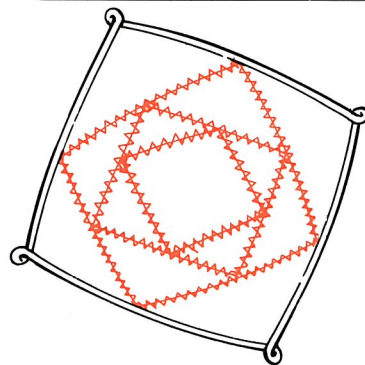
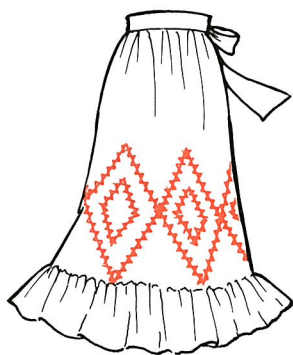


①縫い代を約1センチとり、2枚の布地を中表に合わせ、地縫いをしてから、縫い代をきれいに割ります。



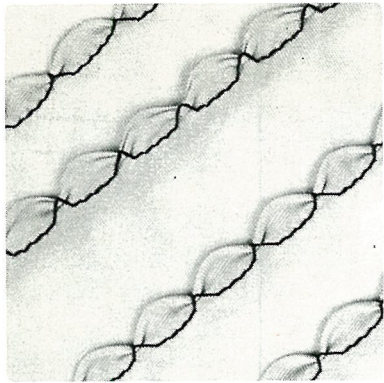
②突き合わせになっている表布から、両方の布地に模様がまたがるようにして縫います。

応用例



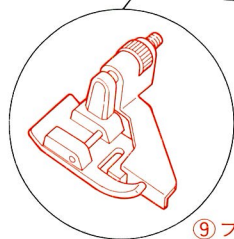
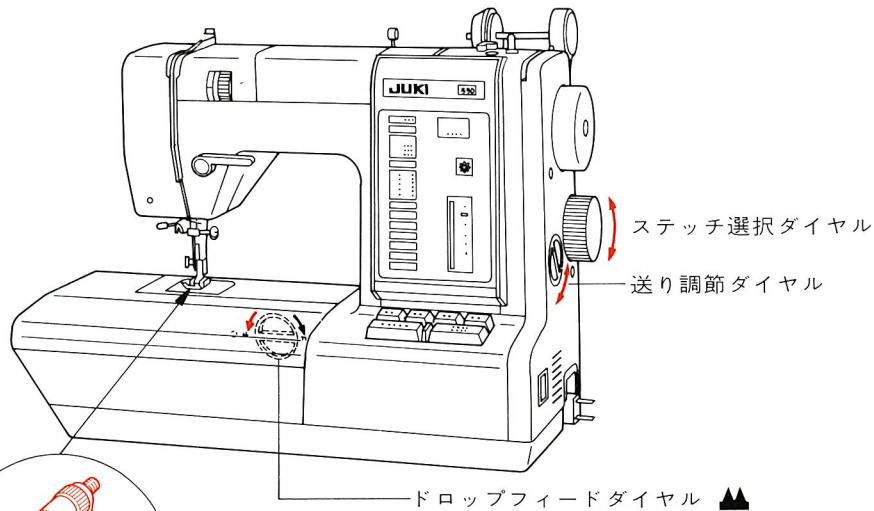
シェルタック

ブラインドステッチを使って貝がら状のひだをとったもので、子供服、ブラウスなどの一部にあしらうと変わりピンタック風で、とてもしゃれています。(薄い布地に最適です)

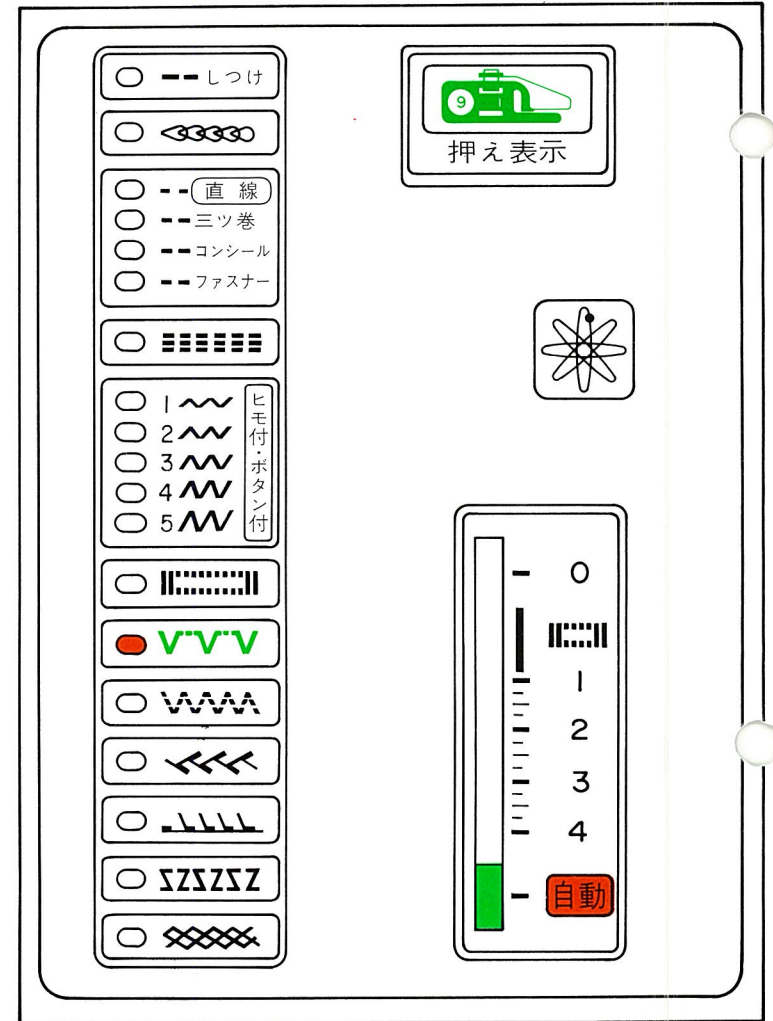


(1) セットのし方

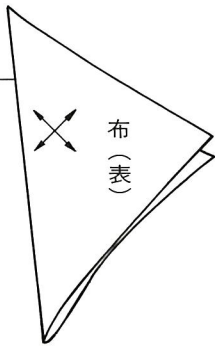
- ①ステッチ選択ダイヤルを **VVV** に合わせ、押え表示窓に表示された **9** の押え金を使います。
 - ②送り調節ダイヤルを **自動** に合わせます。
 - ③ドロップフィードは **▲** に合わせます。
- ※布地は正バイヤスに折ります。



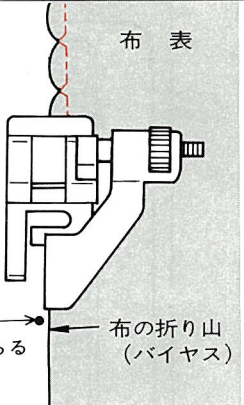
⑨ ブラインドステッチ押え



(2) 縫い方



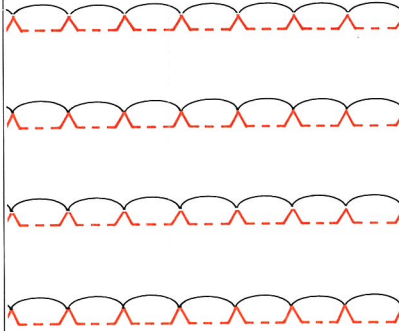
① 布地はバイヤスに折ります。シェルタックを縫うときは布地を押えの左側に置かないで、右側(アームの下)に持ってくる点が他の縫い方と大きな違いです。



② 針を左に振っておき布地の折り山を針に合わせてセットします。

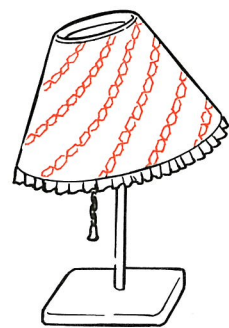
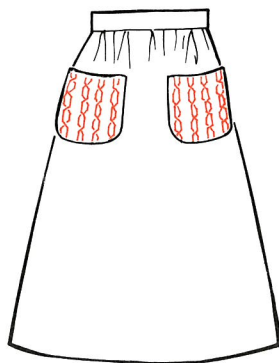


③ 糸調子は少し強めにします。弱いと布地の山が絞られません。



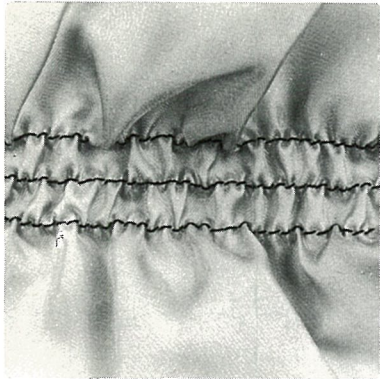
④ 布地の折り山を開いて、ひだをアイロンで片返しにします。

応用例



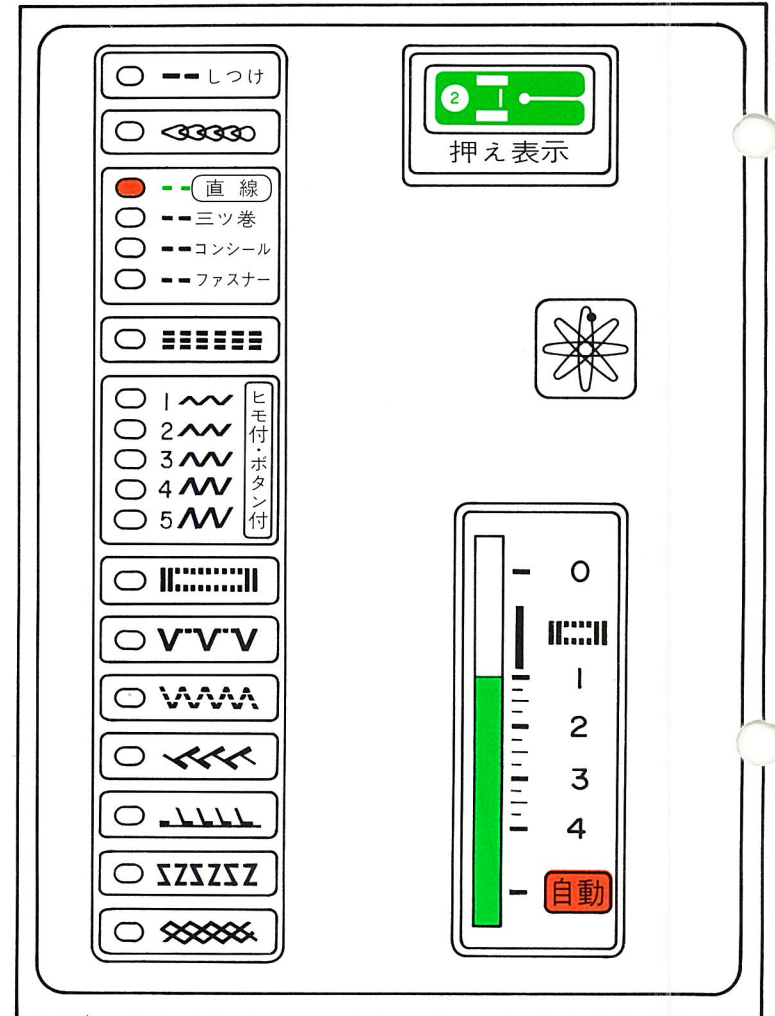
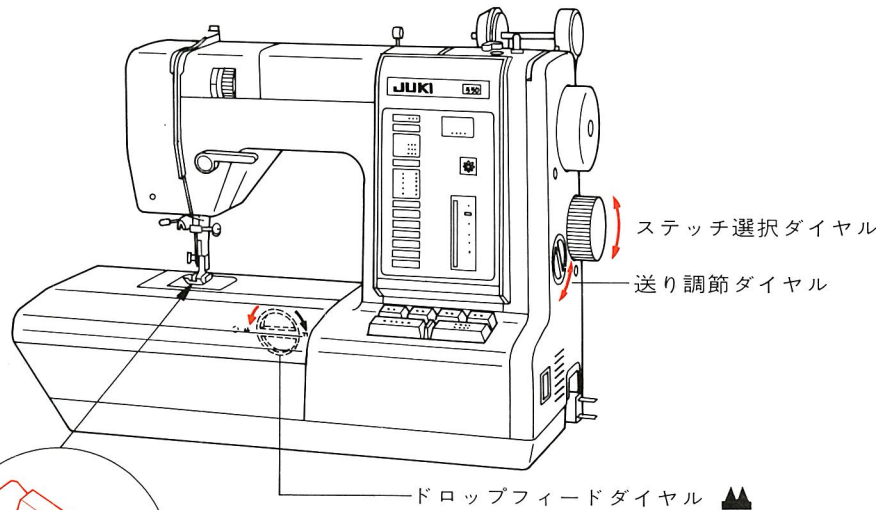
シャーリング

下糸にゴムカタン糸を使ってギャザーを寄せる方法です。スマックブラウス、ワンピースなどの一部に利用します。



(1)セットの仕方

- ①ステッチ選択ダイヤルを--直線に合わせ、押え表示窓に表示された②の押え金を使います。
 - ②送り調節ダイヤルは1~4または自動の目盛を選びます。
 - ③ドロップフィードは▲に合わせます。
- ※下糸に、ゴムカタン糸を使います。

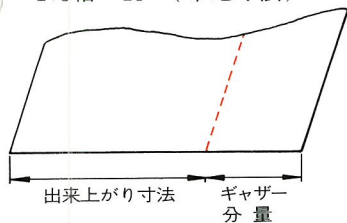


(2)縫い方

ギャザー分量

ギャザー分量は出来上がり寸法の1.5～3倍にする。

例、10センチ出来上がり=10cm×1.5倍=15cm(布地寸法)

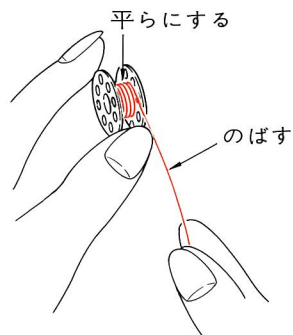


①シャーリングは布地の材質によりその分量を決めますが、およその目安は

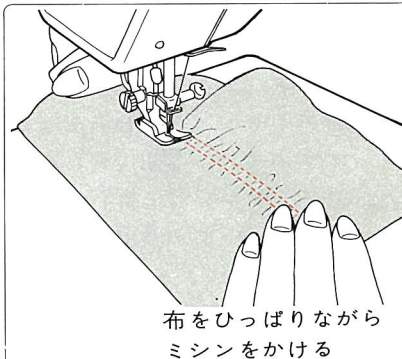
薄手木綿 }
薄手ジャージー } 1.5倍
薄手ウール }

薄手ジョーゼット }
ローン } 2～2.5倍

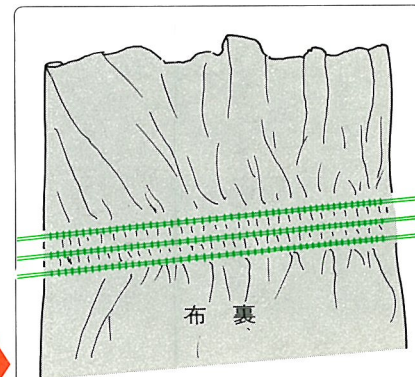
縫い方は直線縫いで直線押えを使います。送りが大きいと縫い目の荒い大きなギャザーになり、送りが小さいと縫い目のこまかい小さなギャザーになります。普通2.5～3の送りにします。



②上糸はごく普通の糸調子(4.5～5.0)ですが、下糸にはゴムカタン糸を使います。ポビンに巻くときは、伸ばしながら平らに並ぶように手で巻いていきます。下糸がゆるいと糸が出すぎてうまくギャザーが寄りません。糸調子は、よく試縫いして決めます。

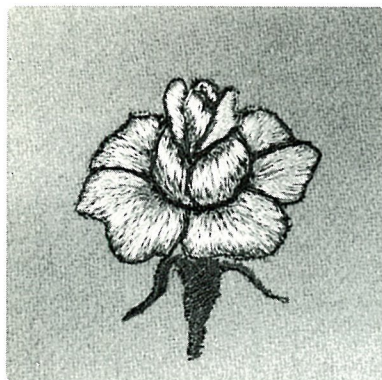


③1本目は普通に縫えますが、2本目からは布地を引っ張りながら縫います。間隔があまり狭いと縫いにくいので最低1センチはあけます。



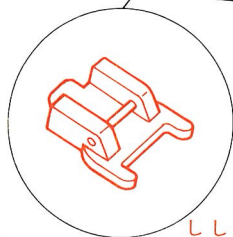
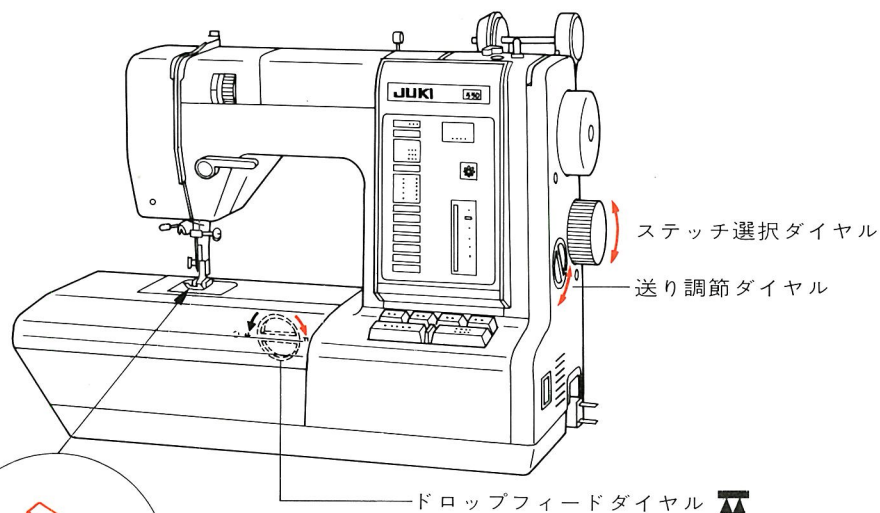
④縫い始めと縫い終りは7～8センチ糸をつけておき、それぞれ上糸を裏側に引き出して、ゴムカタン糸(下糸)と一緒に結びます。

ししゅう



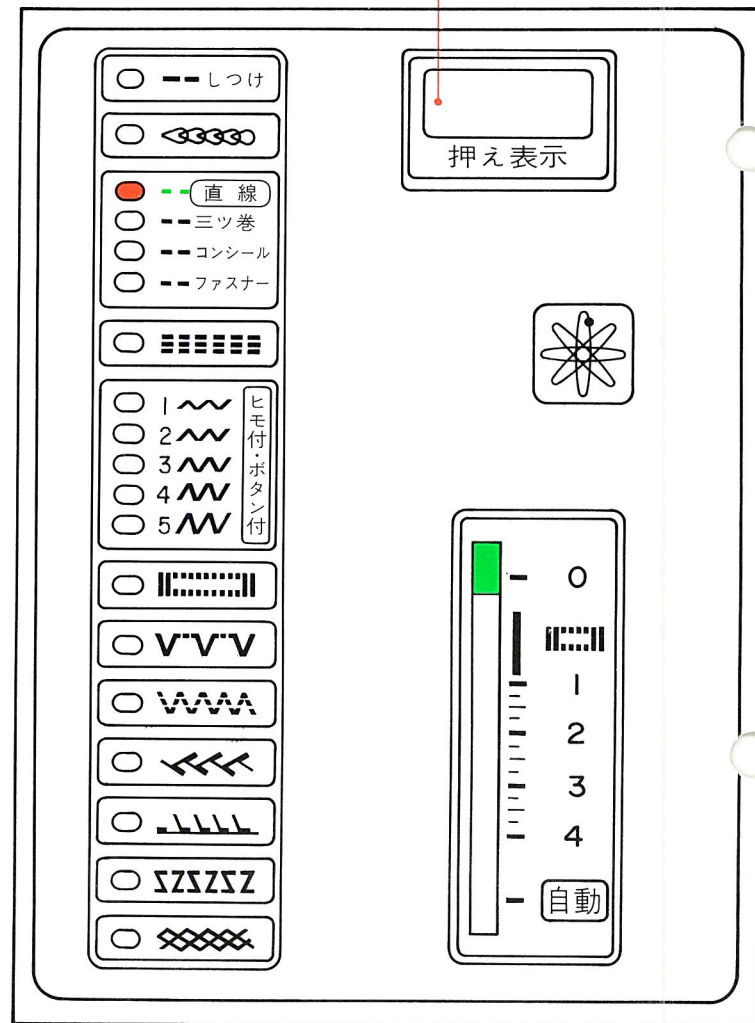
(1)セットの仕方

- ①ステッチ選択ダイヤルを **直線** に合わせ、押え表示窓に表示された押え金を使わず、ししゅう押えを使います。
- ②送り調節ダイヤルは0に合わせます。
- ③ドロップフィードは **▲** に合わせます。
- ④押え調節ダイヤルを弱に合わせます。
- ⑤ししゅう枠を使います。(市販)

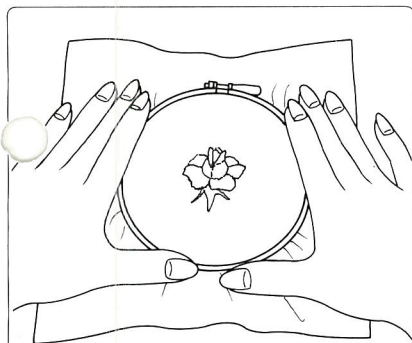


ししゅう押え

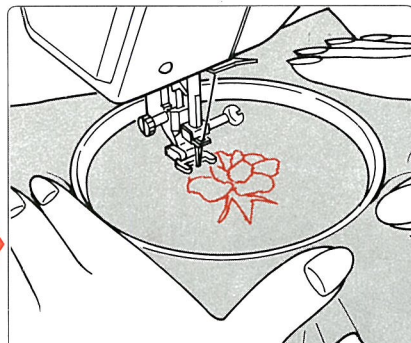
表示された押え金は使
いません。



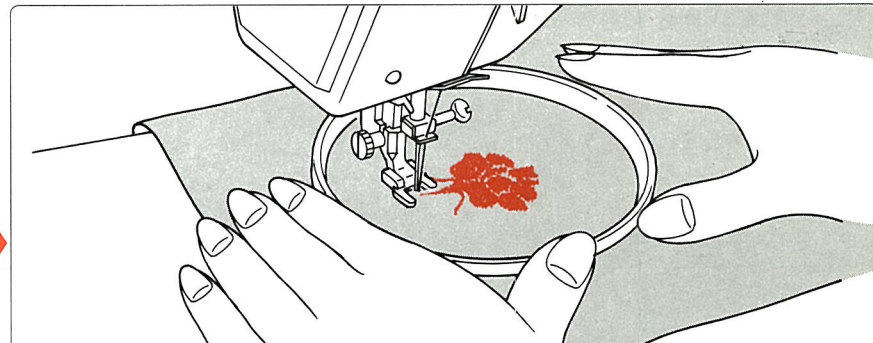
(2) 縫い方



① 図案を描いた布地をししゅう枠にピンと張ります。

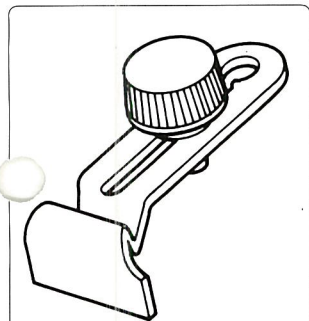


② ししゅう枠を押えの下に入れ、縫い始めの位置に針をあてる。

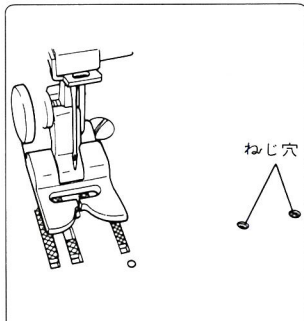


③ 下糸を布地の上に引き出してから、両手でししゅう枠を押えながら図案にそって枠を動かします。ししゅう枠を浮かせないようにします。

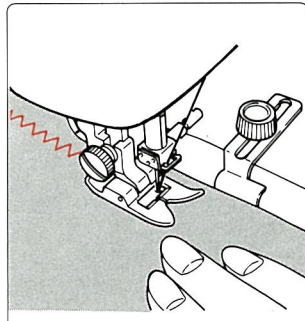
定規(ステッチ定規)の使い方



布地の右端を一定の間隔にあけて縫う場合に使います。直線縫いだけでなく、ジグザグ縫いにも利用できます。



針板の右側のベッド面に2つのネジ穴があります。ここに希望する間隔をあけて定規をネジで止めます。

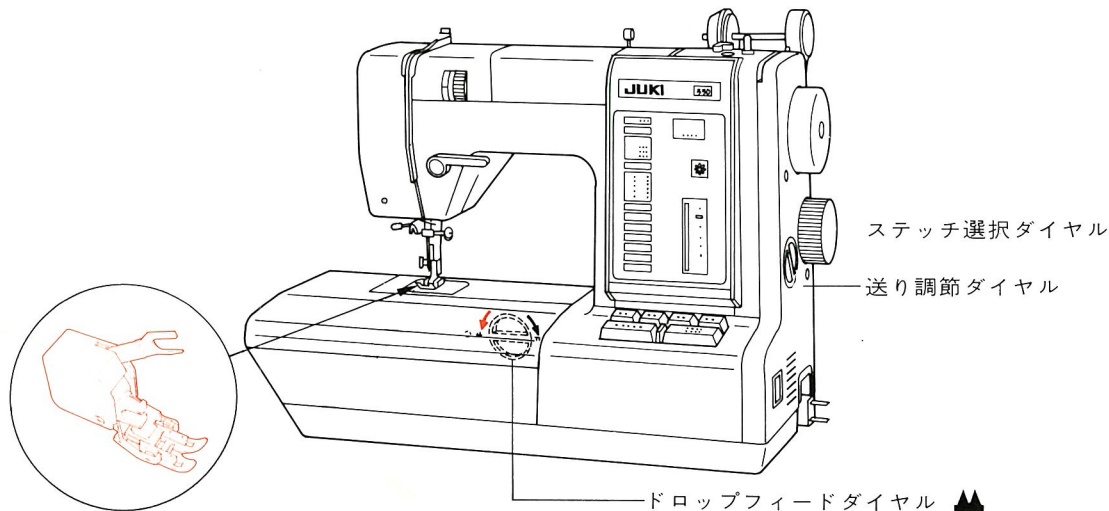
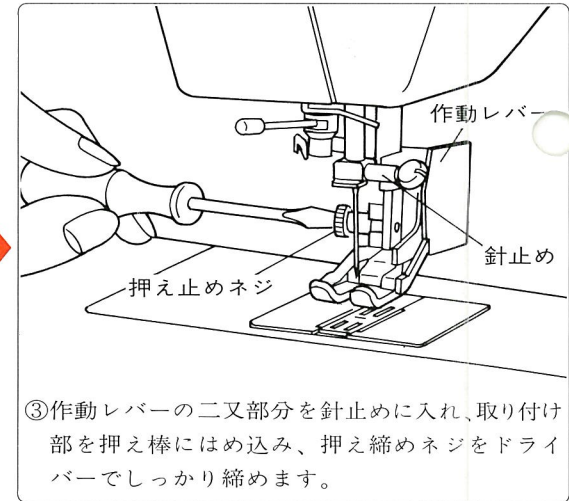
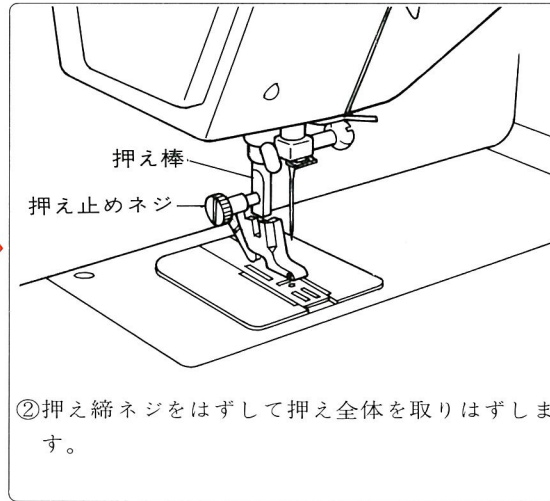
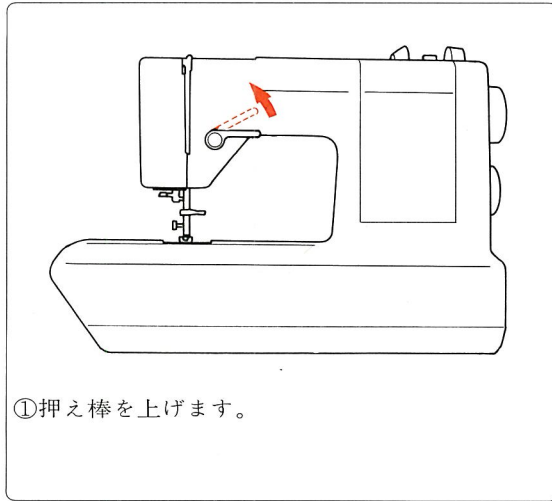


布地の端に定規が当たるようにして縫います。

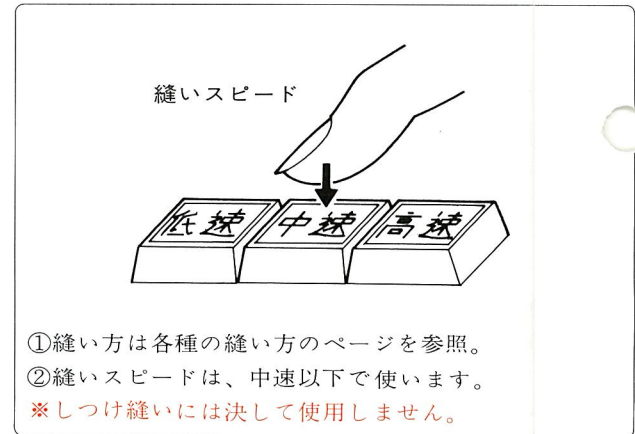
上送り

ニット、ジャージーなど伸縮性のある布地から、サテン、ビニールなどのようなすべすべしているもの、皮のような素材まで、一般ミシンで送りにくいとされているものにご使用します。滑らかな送りで布スレを防止し、きれいな縫い上りとなります。

(1) 上送りアタッチメントの取り付け方

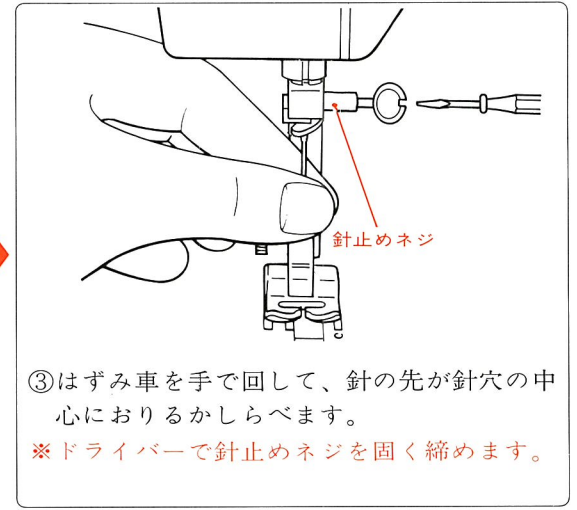
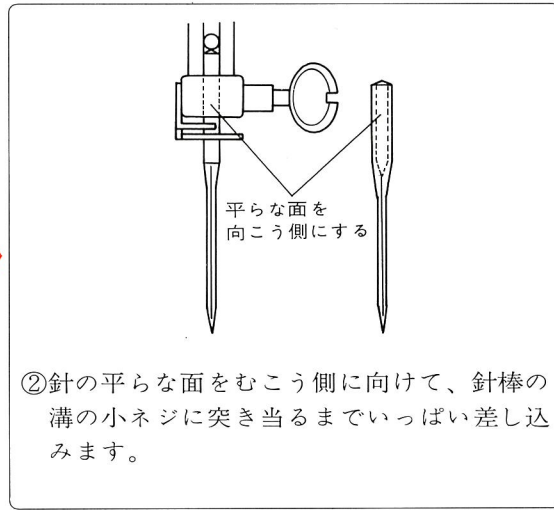


(2) 縫い方

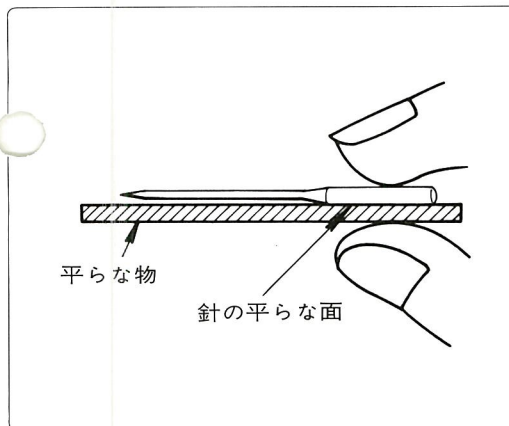


針について

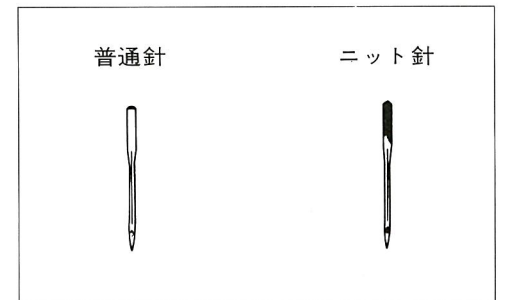
(1) 針の取り付け方



(2) 針のしらべ方



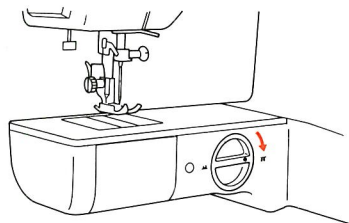
針が曲っていたり、針先が鈍っていると、目飛びや針折れの原因になりますから、取りつける前にならずにしらべます。
針の平らな面を、平らな物に当ててすかして見ます。
良い針は、すき間が針先まで平均に見えます。



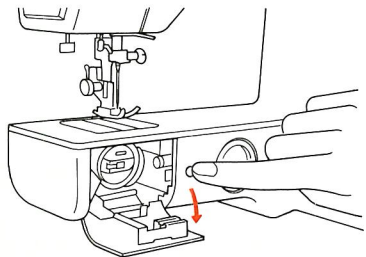
ミシンの手入れの仕方

(1) 掃除の仕方

- ① 送り歯と針板の間に糸くずやほこりがたまりまると、色々な故障の原因になる場合がありますので、常にきれいにしておきましょう。
ドロップフィードダイヤルをダウンにして掃除します。掃除機で吸いこむようにするとよりきれいになります。



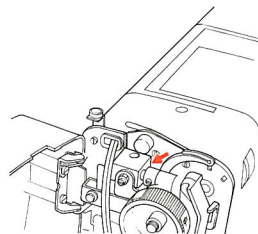
- ② 釜ブタをあけて釜の周辺に糸くずやほこりがたまりまると、色々な故障の原因になりますので常にきれいにしておきましょう。



(2) 注油の仕方

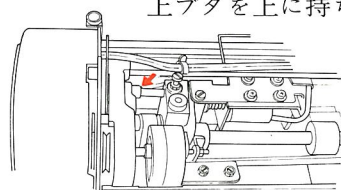
このミシンは特殊軸受けを採用していますので、普通にご使用の場合は注油は必要ありませんが、特に長時間ご使用の場合は、下図の個所に注油します。

①

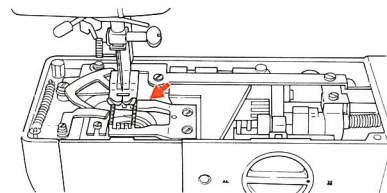


- ② 上ブタを外して注油します。

上ブタを上を持ち上げて左にずらしながらあけます。

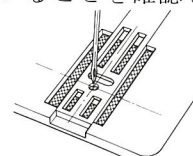


- ③ 針板を外します。針板台はステッチ選択ダイヤルを回して直線縫いにしてから、2本のネジをゆるめて、外します。



針板台のセット方法

針板の針穴の中央に針が落ちるように針板台を合わせながら2本のネジを締めます。
ステッチ選択ダイヤルが直線縫いになっていることを確認します。



故障の原因と修理

故 障	原 因	修 理 の 仕 方
(1)上糸の切れる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○糸の掛け方が間違っているとき ○糸にこぶや結び目があるとき ○上糸の調子が強すぎる時(P17) ○針がまがっているか、針先の鈍いとき ○針の穴にキズがあったり、針の取り付け方が間違ったとき ○針と糸の太さが調和しないとき 	<p>糸を通す順序を調べて掛けなおします。</p> <p>糸をとりかえる</p> <p>布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べて強すぎないように糸調子を合わせる</p> <p>針をとりかえます(P71)</p> <p>正しくとりつけます(P71)</p> <p>布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べます(P15)</p>
(2)下糸の切れる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○ボビンケースの糸通し方が間違っている ○ボビンが不良でボビンケースの中で良く回らないときや糸を巻きすぎたとき ○ボビンケースの糸調子バネが摩耗し、みぞがいたんでいるとき 	<p>ボビンをボビンケースに入れる方法(P9)</p> <p>下糸の巻き方(P8)</p> <p>糸調子バネを交換する</p>
(3)針が折れる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○ほそい針で厚物を縫ったり、ほそい針に太い糸を使用したとき ○針の取り付け方が間違っているときや、まがった針を使用したとき ○針止めネジの締め方が弱いとき 	<p>布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べます(P15)</p> <p>針について(P71)</p> <p>針止めネジをドライバーでしめる(P71)</p>
(4)縫い目の飛ぶ場合	<ul style="list-style-type: none"> ○針がまがっていたり、針先が鈍いとき ○針棒に針を正しく取りつけていないとき ○針が糸にくらべて太すぎる時 	<p>針の検査をします(P71)まがっているときは針をかえる</p> <p>針について(P71)</p> <p>布地、ミシン糸、ミシン針の関係(P15)</p>
(5)縫い目にしわができる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○上糸、下糸の調子が強すぎる時 ○薄物に対して縫い目が大きいとき ○ボビンに下糸が平均的に巻かれていないとき ○針先がいたんでいるとき 	<p>布地、ミシン糸、ミシン針の関係とミシンの合わせ方(P15)</p> <p>縫い目を小さくする</p> <p>下糸の巻き方(P8)</p> <p>針をとりかえる</p>
(6)縫い目に輪ができる場合	○上糸と下糸の調子が弱すぎる時	下糸はP8参照、上糸は布地、ミシン糸、針の関係とミシンの合わせ方P15
(7)送り歯が送らない場合	<ul style="list-style-type: none"> ○送り歯が出てない ○縫い目の長さが0になっているとき ○押し圧力が弱いとき 	<p>ドロップフィードダイヤルを▲に合わせます(P3)</p> <p>送り調節ダイヤルを動かして調節します</p> <p>押し調節ダイヤルを中または強にします</p>
(8)回転が重い、または音が大きい場合	<ul style="list-style-type: none"> ○送り歯にゴミがたまっているとき ○長時間使用して油がなくなったとき ○ミシン油でない油を使用したとき ○釜に糸クズがたまっているとき 	<p>ミシンの手入れの仕方(P72)</p> <p>ミシンの手入れの仕方(P72)</p> <p>ジューキミシン油を使います</p> <p>ミシンの手入れの仕方(P72)</p>
(9)ミシンの回転数が異状に高くなったり変動した場合	○50Hzと60Hzの切り換えが正確に行われていない	周波数の切り換えスイッチを切り換えます(P1)



東京重機工業株式会社

家庭製品販売部	郵便番号160	東京都新宿区歌舞伎町1丁目23番の3号	☎(205) 1181~6
北海道販売課		(ジューキミシンビル)	
東北販売課	郵便番号160	東京都新宿区歌舞伎町1丁目23番の3号	☎(205) 1181~6
東京販売課		(ジューキミシンビル)	
関東販売課			
名古屋出張所	郵便番号460	名古屋市中区新栄町8の1(ジューキ名古屋ビル)	☎(936) 2591~4
大阪出張所	郵便番号530	大阪市北区曽根崎新地3丁目30の1	☎(344) 3612~5
統括4課 (四国地区)	郵便番号730	広島市中区大洲町1の9の42	☎(81) 9174(代)
統括5課 (中国地区)			
九州統括課	郵便番号812	福岡市博多区博多駅前2丁目2-1(福岡センタービル)	☎(451) 5630~2

..... 本 東京都調布市国領町8丁目2番地-1 電話(480)1111(大代表)